

クリの栽培事例集



クリ+仕事



クリ+年金

組織経営体



目次

◆はじめに	3
◆クリ+仕事の実組事例	4
◆クリ+年金の実組事例	13
◆組織経営体のクリづくりの紹介	22
◆クリの生産者組織の紹介	33
◆東美濃"クリ地産地消(商)産地拡大"プロジェクト活動	36



はじめに

東美濃クリ産地は、岐阜県の南東部にある中津川市・恵那市で構成され、県全体の 1/2 の生産量を誇る一大クリ産地です。そして、そのクリを原料とする菓子業者が多く存在し、クリを原料とする栗きんとんは東美濃地域の名物の 1 つとして大変人気です。

しかし、栗きんとんの原料など地元のクリ需要に対して、当産地でのクリ生産量が追いついておらず、モンブランなどクリスイーツのブームも相まってクリの需要は高まりを見せています。

また、クリは収穫と剪定以外であまり手がかからない作物であり、クリ+仕事など何かと組み合わせで栽培することができます。クリの需要が高まりを見せている中、東美濃地域でクリを栽培してみませんか。本書ではクリ+仕事、クリ+年金の事例と組織経営体としてクリ栽培を始めた事例を紹介します。クリで就農を考えている方は、ぜひ参考にしてください。

クリ+仕事の実例





鈴木直樹さん

生まれ育った故郷の役に立ちたいとクリ栽培を始めました。現在は、企業向け研修の講師などのコーチングの仕事とクリ栽培を両立させています。クリの栽培を通じて恵那市の交流人口の増加につなげていきたいです。

【生産物】 クリ、水稻

【営農地】 恵那市上矢作町

【面積】 クリ30a
(約120本)

水稻50a

【就農】 平成30年

Uターン就農

生まれたときからクリがあったので、作業の手伝いは子供の頃からしていました。平成30年に上矢作に戻ってきてからは、故郷に何か恩返しをしたいと考え、クリ栽培を始めました。現在はリモートワークをしながらクリと仕事を両立させています。仕事と農業の比率は7:3で農作業を早朝と夕方に集中して行い、昼間は仕事に専念しています。



第32回全国クリ研究大会にて青壮年部が大会決議をする様子（左から3番目）

クリ栽培をしてよかったこと

クリ栽培はまとめて作業ができ、自分の都合で作業の順番を決めやすいので兼業農家向きの品目だと思います。

クリ栽培の仲間がたくさん出会えたこともクリ栽培をしていてよかったことです。

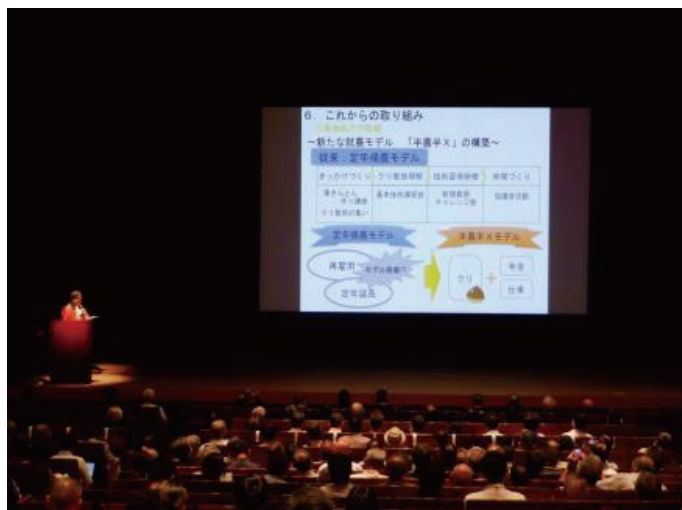
地域貢献

地域の子どもたちに対し、農業の魅力や地域産業について知ってもらうため学校でクリについて教える授業をしています。農業も将来の良い選択肢になることを伝えていきたいです。

鈴木さんの将来の夢

日当たりの良い山林の斜面をクリ園に変えていくなど、斜面を生かした栽培事例を作りたいです。

また、企業の研修プログラムに収穫体験など農作業を取り入れるなど農業を通じた交流人口の創出にも取り組みたいです。



同大会で事例発表した様子

鈴木さんのクリ園の紹介

クリ拾いができる環境を整えており、クリ園から見える景観がとてもきれいなので、ぜひ足を運んでほしいです。私の地域は山間地で斜面にクリが植わっているため機械が入りづらい欠点がありますが、その状況を逆手に取り、斜面をクリが転がり斜面の途中で棚を設置することでクリが自然に集まるように工夫して作業負担を減らしています。



中山勇吾さん

無農薬栽培かつ化学肥料を抑えた栽培に取り組んでいます。化学肥料は収量とのバランスを見ながら調整を行い、草刈りで出た草は土壌にすきこみ緑肥にしています。

【生産物】 クリ

【営農地】 恵那市大井町

【面積】 120a
(約400本)

【就農】 平成28年

兼業農家から専業農家へ

以前は、サラリーマンとクリ栽培で兼業農家をしていましたが、35歳のころに営農を志し、37歳で脱サラして専業農家になりました。元々農業大学校出身で農家への興味がありました。

すべて自分でやれるのが農家の魅力

経営や栽培等すべて自己決定できるため、やりがいがあり、ストレスを感じることは少ないです。組織になじめない人は農家はよいと思います。



剪定作業の様子

中山さんの将来の夢

現在は無農薬・減化学肥料栽培をしているので、有機認証をうけたいです。あとは、ほとんど1人で栽培しており経営面積を増やすことができていませんが、将来的には増やしていきたいです。

地域貢献

指導剪定士の資格を持ち、管理しきれない方のために約200aの剪定を請け負いました。また、後継者のいない農地を引き取り、耕作放棄地になるのを防いでいます。



第32回全国クリ研究大会にて青壮年部が大会決議をする様子（右から3番目）

中山さんのクリ園の紹介

無農薬・減化学肥料栽培以外にも、電動剪定バサミやチッパーなどの省力化機械を駆使して、効率よく圃場を管理しています。

超低樹高栽培の中でも特に樹高を低くすることで、将来年を重ねても作業がしやすくしています。



山田美香さん

青壮年部で副会長(令和7年現在)として活動しており、令和6年の全国クリ研究大会では、大会決議を青壮年部の仲間と発議しました。

農場から見渡せる山々のきれいな景色から季節の移り変わりを感じながらクリ生産をしています。

【生産物】 クリ、水稲

【営農地】 中津川市千旦林

【面積】 クリ30a
(約100本)

水稲43a

【就農】 平成28年ごろ

就農経緯

クリ栽培をしていた父が体調を崩したのを機に、手伝いをするようになりました。クリが一番採れる時期に父が亡くなり、もったいないということで引き継ぐことになりました。現在は、週3日事務の仕事をしながら、母と協力してクリ生産をしています。

初心者で分からないことだらけ

今までほとんど農業の経験がなく、栽培知識がないため苦労しましたが、協議会に加入をしてからは、クリ栽培をしている仲間に色々教えて頂くことができました。そのおかげで栽培等で不安になることは少なかったです。

山田さんの将来の夢

クリ栽培で、仲間に支えてもらったように、次は自分も支える側になって技術をつなげていきたいです。

地域貢献

中津川の特産品である栗を生産していることが地域貢献だと思っています。



クリ園の様子



第32回全国クリ研究大会にて青壮年部が大会決議をする様子（真ん中）



圃場から見える景色

山田さんのクリ園の紹介

圃場からは、恵那山、御嶽山、笠置山が見え、とても景色がきれいです。自然の移り変わりを味わうことができ、天気の良い日は気持ちがいいです。クリ栽培を始めたことで、自分のクリ園から見える景色の良さに気づくことができました。



(有)水野園芸 水野智仁さん

クリ、シンビジウム、トマトなど複合して栽培しています。冬にはシンビジウム栽培を行うことで、年間を通じて仕事がある体系を確立。この作物毎の繁忙期をずらした複合経営により、広い農地を管理することができます。

- 【生産物】 クリ、シンビジウム
トマト、水稲、ブドウ他
- 【営農地】 恵那市長島町
- 【面積】 クリ 350a (約 1000 本)
花 5000 鉢シンビジウム
トマト 20a (約 5000 本)
水稲 1.2ha
- 【就農】 平成 30 年

就農経緯

33歳で花市場を退職し、家業である水野園芸の仕事に携わるようになりました。父親が倒れたのを機に、帰郷して就農することにしました。

クリ栽培のメリット

クリは植えてからの収穫期間が長く長期的に収入が見込めます。単価も安定しています。収穫以外は作業に追われることはないですし、複合経営に向いている品目といえます。

(有)水野園芸さんの将来の夢

クリ園の規模拡大に取り組んでいきたいです。

クリの収穫等の体験型農業に興味があり、いずれ取り組みたいです。

地域貢献

クリの新規栽培者向けの講習会（クリ新規栽培チャレンジ塾）の学びの場として、圃場を毎年提供しています。クリ栽培の仲間が増えるよう青壮年部として、担い手確保の活動にも取り組んでいます。



クリ新規栽培チャレンジの収穫体験の様子



圃場の様子



第32回全国クリ研究大会にて青壮年部が大会決議をする様子（1番右側）

(有)水野園芸さんのクリ園の紹介

私のクリ園では、イタリアンライグラスを用いた草生栽培をおこなっています。イタリアンライグラスを播種し占有させることで雑草が生えるのを抑えることができます。そのほかの効果として、土を柔らかくしたり土壌流亡の防止効果等があります。

クリ+年金の取組事例





飛騨美濃特産名人・名人剪定士 榊間信明さん

選果場の効率化に取り組み、生産者の負担軽減と作業効率 UP を実現。あわせて名人剪定士としてクリ栽培の講習会等で指導に取り組み、地域生産者の育成に尽力したとして、県知事から飛騨美濃特産名人に認定していただきました。

【生産物】 クリ

【営農地】 中津川市駒場

【面積】 クリ 55a
(約 250 本)

【就農】 平成 4 年

定年後の楽しみに

定年退職を機に第二の人生として栗農業を始めました。きっかけは妻の「畑が空いているから定年後の楽しみに栗の木でも植えて置いたら」という言葉でした。軽い気持ちで60本植えて、農業は苦手でしたが、自分で植えた木が可愛くてすぐに夢中になりました。

クリ栽培をしてよかったこと

サラリーマンも楽しかったですが、クリ栽培はそれとは別次元の楽しさがあります。植物を育て、その実りをいただくことの楽しさを味わっていただきたいです。また、クリ栽培は収穫などみんなで楽しく作業ができる点が良いです。

地域貢献

東美濃栗振興協議会長や超特選栗部会長などを歴任し栗振興に尽力しました。名人剪定士の資格を持ち、剪定講習会等の講師として地域生産者の技術の底上げにも尽力しています。

榊間さんのクリ園の紹介

10年ごとに新植開園をしてきたので、樹齢ごとの木が固まっており、管理がしやすくなっています。また、クリ栽培に不向きと言われる水田転換畑を、排水対策等の工夫を凝らして利用しています。

全果連会長賞を受賞!!

定年帰農者として定年帰農モデルの構築に寄与され、東美濃栗振興協議会長、県振興会果樹部会くり専門部長等を歴任、基本技術講習会等で講師として地域生産者の育成に尽力された等の功績から第32回全国クリ研究大会岐阜県大会で全果連会長賞を受賞されました。



第32回全国クリ研究大会にて全果連会長賞を受賞
(写真右)



圃場の様子



鈴木峰夫さん

農家をしながら町議や教育長など地域のための活動をしてきました。

自然豊かな山地の斜面でク리를栽培しています。獣害には苦労していますが、他の作物が植えられないような斜面を有効活動することができよかったです。

【生産物】 クリ、水稻

【営農地】 恵那市上矢作町

【面積】 クリ30a
(約120本)

水稻50a

【就農】 昭和35年

蒟蒻からクリへ

桑畑の跡地に最初は蒟蒻を植えていました。蒟蒻と水稻では生計が立てにくくなり建材会社と兼業をすることに。昭和 60 年代に蒟蒻をすべてクリに改植、この時も兼業でした。その後、町議、教育長を務めた後、専業農家になりました。

クリ栽培をしてよかったこと

クリは JA を通じての出荷をすることで収入が安定しています。

また、講習会等の技術指導が充実しており、技術共有もできるので安心してクリ生産をすることができます。

地域貢献

農家をやりながら、町議や教育長等多くの役を受け、地域のために活動をしてきました。教育長に就任した際には虫歯ゼロを目指して、歯の教育に力を入れました。また、クリ拾い体験を通じて、地域の良さを PR しています。



圃場の様子



東美濃栗振興協議会役員会で挨拶する様子



剪定の様子

鈴木さんの今後の目標

一年でも長くクリ生産に携わりたいです。地域の宿泊施設等と連携して、クリ園に多くの方が訪ねてきてほしいです。

鈴木さんのクリ園の紹介

クリ拾いができる環境を整えており、クリ園から見える景観がとてもきれいなので、ぜひ足を運んでほしいです。



飛騨美濃特産名人・名人剪定士 森 晃さん

負けず嫌いな性格で、クリの栽培技術の習得と栽培規模の拡大に努めてきました。指導剪定士の資格を取得し、地元農家の技術指導にも尽力しています。

【生産物】 クリ、水稻

【営農地】 中津川市坂下

【面積】 クリ 140a
(約 560～570 本)

水稻 30a

【就農】 平成 16 年

サラリーマンから クリ栽培の道へ

サラリーマンとして勤務していましたが、平成16年に父親の50aのクリ園を引き継ぎました。3年間はサラリーマンとクリ栽培を兼業していましたが、クリ栽培に専念するため55歳で早期退職。退職を機に栽培面積を120aまで拡大。「増やしすぎ」と家族に怒られました。

植物栽培が好き

元々植物を触るのが好きで栽培が楽しく、作業は苦ではないです。植物は手をかけただけ応えてくれることがやりがいにつながります。

持続的なクリ栽培に向けて

クリ園を後継者に引き継ぐため、大規模な改植に着手。5年以内に父親から受け継いだ樹(50a)をすべて改植することが目標です。

森さんのクリ園の紹介

現在、改植を進めており、後継者に万全の状態でもらえるよう努めています。

作業の効率化に着手し、改植圃場を列ごとに品種を集約したり、V字型剪定により機械化に対応できる樹形づくり等に取り組んでいます。

産地とクリ生産者の 育成に尽力

クリの役員を務め、クリの単価向上に尽力し、生産者のやる気向上と産地活性化を推進、農地の橋渡し役(クリ相談員)も務め、新しい生産者が増えるよう尽力しました。また、指導剪定士として、地元のクリ農家に栽培技術の普及活動に尽力し、これらの功績から令和6年、名人剪定士に就任、飛騨美濃特産名人にも認定されました。



剪定作業の様子



剪定講習会で指導する森さん(写真一番左)



令和6年に名人剪定士に！ 森川哲幸さん

指導剪定士として地域生産者に栽培技術の普及に尽力してきました。

クリは健康を兼ねて農地を守っていくのにちょうどいい作物だと思います。今後クリ栽培をする人は1年でも早くクリを植えておくことをおすすめします。

【生産物】 クリ、水稲、自然薯

【営農地】 恵那市長島町

【面積】 クリ55a
(約230本)

水稲40a

自然薯5a

【就農】 平成16年

父のクリ園を拡大

父が30aほどのクリ園を経営。50歳の時に30aの水稻畑をクリ園に改植、当時はサラリーマンと兼業でした。元々退職したら農業をやっていくつもりだったので、58歳ごろ早期退職をし、農地のすべてを管理するようになりました。

クリ栽培は老後にちょうどいい

クリは所得率が高く収入が見込めるので、年金+αにちょうどいい品目だと思います。退職後にもやりがいのある仕事があり、仕事の時間は調節ができ趣味に時間を使えますし、クリ栽培をやってよかったです。

生産者・地域の人々の教育に尽力

指導剪定士として、地元のクリ農家へ指導をおこない、栽培技術の普及に努めてきました。学生教育にも携わり、地元高校生を受け入れて、地域特産物学習の指導をおこなったり、地域特産物の教科書作成の協力も行ってきました。



圃場の様子

森川さんの将来の夢

地域の農地を守ることは私たちの責務です。クリ栽培に定年はないので、健康管理をしながら1年でも長くクリを作り続けたいです。



クリ基本技術講習会で講師として指導する様子



夏季剪定講習会で講師として指導する様子

森川さんのクリ園の紹介

東向きの特ラス式の圃場で日当たりは良く生育がとても良いです。品種は丹沢・筑波が多いですが、生りが悪いのは「えな宝来」に変えていっています。収穫は妻と2人で頑張っています。

組織経営体の クリづくりの紹介





(有) 恵那栗

(株) 恵那川上屋の生産部隊として、現在20haのクリ園を管理しております。管理のできなくなったクリ園を引き受けていますので、クリ栽培をやめる農家さんの最後の拠りどころとして今後も頑張っていきたいです。

- 【生産物】 クリ、自然薯、モモ
- 【営農地】 中津川市全域
恵那市三郷町
- 【面積】 クリ20ha
(約4600本)
自然薯 8a
モモ 30a (50本)
- 【設立年】 平成16年

クリ栽培経緯

平成16年4月に(株)恵那川上屋の生産部隊として設立。農家の高齢化に伴い、クリ園の管理ができる人が減ってきました。そこで、管理のできなくなったクリ園を引き受けるとともに、クリの生産技術をもった人材を育成するために設立しました。

クリ栽培をしてよかったことは

後継者のいないクリ園を後継者が見つかるまで受け入れて次の世代にクリ園を渡す橋渡しができています。また、地元でとれたものを地元で加工販売することで産地消の取組ができています。

将来の展望

農地の集約化と作業の機械化ができる圃場整備に取組み、生産の効率性を上げていきたいです。また、後継者のいない農地をクリに転換してクリの生産面積を増やしていきたいです。



圃場から見える景色



選果の様子

収穫されたクリ



地域貢献

担い手のいないクリ園を引き受け、担い手が現れたら渡すという園地のバトンタッチをすることでクリ園の耕作放棄地化を防いでいます。

(有)恵那栗のクリ園の紹介

20haの土地で、クリを低樹高・超低樹高栽培で管理しています。研究機関と連携して、作業の機械化や剪定方法の見直しに取り組んでいます。



(株)えな笠置山栗園

地元菓子屋へのクリ需要に対応することを目的に笠置山で大規模な栗栽培に挑みました。

定年退職者に対して働く場を提供する雇用創出や、子供たちへ栗拾いやイベント、食育を通じて地元特産品の教育活動もおこなってきました。

『めざせ日本一』をスローガンに、広大なグリーンピア跡地を活用してクリを栽培しています。

【生産物】 クリ

【営農地】 恵那市中野方町

【面積】 クリ 18.56ha
(約 6200 本)

【会社設立】 平成 28 年

跡地をどうにか 利用できないか

グリーンピアの跡地を活用する計画があり、農業振興協議会、まちづくり委員会、市で話し合い、クリ園として活用することに。生産組合を設立し、拡大途中で法人化しました。

セカンドライフ交流の 場として

定年退職者が地元で働ける環境を作り、セカンドライフをみんなで楽しく過ごせる場を作ることができました。

また、収穫祭や焼き栗イベントを行うことで、クリ園が人々の交流の場になっていよかったです。

『めざせ日本一』を スローガンに！

将来は収穫量 50 トンを目標に、生産量・販売量・味・値段で日本一を目指しています。

さらに、クリ園の経営基盤を確立し次世代に繋げていくとともに、クリ生産のみで経営が成り立つモデルを作っていきたいです。

地域貢献

市の観光協会と協力して、収穫祭や栗拾いツアーを実施し、人々が交流できる場を提供すると同時に、地域外に向けてクリの PR をおこなっています。

地域の子供の教育にも取り組み、毎年、小学生がクリ拾い体験に訪れ、地元特産品の生産と出荷について学んでいます。



選果作業



学校給食に提供
したクリ

第 32 回全国クリ研究
大会の現地視察で
挨拶する代表

(株)えな笠置山栗園の紹介

約 19 ha の広大な土地一面に植えられたクリ園の景色はとてもきれいで圧巻です。スマート農業にも取り組んでおり、ドローンによる航空防除や直進アシストトラクタ等の導入をしています。



ドローン防除の様子



(農)やさかファーム

(農)やさかファームでは現在、川上地区の水田のうち約7割を管理しております。水田として管理の難しい土地があり、JA、県の勧めがありク리를植え始めました。

【生産物】 クリ、水稻

【営農地】 中津川市川上

【面積】 クリ40a (90本)

主食用米 17.5ha

飼料用米 16.6ha

【栽培開始】 平成 28 年

クリ栽培をはじめた経緯

水田として管理の難しい土地を引き受けることになりましたが何を作付けするか悩んでいました。JA、県からクリ栽培の提案があり、県の補助事業を活用して平成28年からクリ栽培を開始することになりました。

土地環境に苦戦

植えたところが粘土質の土壌で水はけが悪く、凍害被害に苦しめられています。明渠や暗渠を掘るなどして対策を講じていますがなかなか厳しいです。また、堆肥を多く施用されていた圃場では雑草が旺盛で草刈りにも苦戦しています。

今後の目標

現在は、凍害などクリ栽培に苦労していますが、いずれは何とかものにしていきたいです。樹の生育が順調ではないので、早く収量を増やして、観光農園にも取り組んでいきたいです。



柵設置の様子

地域貢献

地域で出た管理のできなくなった農地を引き受け、地域農地を守っています。



冬季剪定の様子



総会の様子

(農) やさかファームさんのクリ園の紹介

テラス式の圃場で、樹が植わっているところは傾斜がなく作業性が良いです。網を周りに設置して、獣害対策と落ち葉が近隣に飛散しないよう注意しています。



クリ園の様子



(農)はちたか

経営面積 64ha と広大な農地で多種多様な作物を栽培しております。

水田利用が難しい農地の遊休化を防ぐため、クリ栽培に取り組みました。

【生産物】 クリ 29a (120 本)
水稲 38ha
飼料用イネ 15ha
WCS 用イネ 3.92ha
麦 6ha
ブロッコリー 42a
トウガラシ 7a

【営農地】 中津川市福岡

【栽培開始】 令和元年

クリ栽培をはじめた経緯

基盤整備をした土地が、水を引いてくることが難しく水田利用ができませんでした。そこで、その土地が耕作放棄地にならないようクリを植えることにしました。凍害に遭うことがあり、樹が枯れてしまうなど苦労しました。

(農)はちたかさんの今後の展望

地域の農地が減らないよう、この地域で農業を続けていきたいです。

自己保全管理をしている農地が50aほどあるので、いずれはクリを植えていきたいです。

自分の地域は自分で守る

地域の農業は自分たちで守るとするのがはちたかの理念です。水田利用が難しい土地を、クリ園として有効活用できてよかったです。



圃場の様子

地域貢献

水田利用が難しい農地でクリを栽培するなど、地域の農地を引き受け管理をすることで、地域農業を守っています。また、法人営農により、地域に雇用を生んでいます。



剪定の様子



凍害対策作業（株ゆるめ）の様子

(農)はちたかさんのクリ園の紹介

国の棚田指定地域で栽培しており景観がとても良いので、今後もこの地域で栽培を続けていきたいです。令和6年度から、超特選栗部会に入ることができました。



いが栗の里 中津川マロンパーク

中津川マロンパークは自然豊かな里山でクリ拾いができる施設になります。当園をきっかけに中津川市の観光人口が増えるよう頑張っております。

【生産物】	クリ
【営農地】	中津川市中津川
【面積】	クリ 4.7ha (1600本)
【開園】	平成28年

中津川マロンパーク設立経緯

中津川市が企業に売却する計画だった土地がありましたが計画がとん挫してしまいました。この土地を何か有効活用できないかという話になり、観光クリ園が選ばれました。平成24年にクリを植栽し、平成28年に開園に至りました。

観光のきっかけになれば

中津川マロンパークのクリ拾いで観光客を呼び込み、その足で中津川市を観光してもらうことで観光人口増加につながっていればよいと思います。

今後の展望

リニア新幹線が中津川市に通るということで、さらなる観光客が見込めると思います。それに向け、観光スポットとしての地位を確立するとともに、栽培面積の拡大と管理体制の強化をしていきたいです。



珍しい6つ栗

地域貢献

中津川マロンパークが中津川市の観光客を集める起爆剤になっていけばよいと思います。栗きんとん発祥の地「中津川」でクリ拾い体験ができることで、クリの魅力を全国に発信できていると思います。

中津川マロンパークの紹介

5m 間隔で規則正しくクリの樹が整然と並んでおりきれいです。またクリ園から見える景色も格別です。また当園では、クリの鬼皮の堆肥有効利用の研究で、菓子屋から鬼皮を購入し、堆肥化して肥料とする自然循環に取り組んでいます。



圃場から見える景色



栗おこわの販売

クリの生産者組織の紹介





東美濃栗振興協議会

中津川市、恵那市全域の栗生産者で構成されており、昭和60年のピーク時には最大約330haで栗栽培が行われていました。平成6年に恵那川上屋と坂下地区が契約出荷を開始し、今日も「超特選栗」として全量買取の契約出荷が続いています。

平成20年にはぼろたん研究会が発足し、部会化された現在も年間約5tの出荷が行われ、インターネットや関東の高級デパート向けに高単価での販売が行われています。

若手や就農年度が浅い生産者で構成された青壮年部会では、栗栽培に興味を持つ新規就農希望者向けの相談の場を設けたり、独自の研修会を開いたりと次代の担い手づくりに携わっています。

【会員数】 167名(令和7年現在)

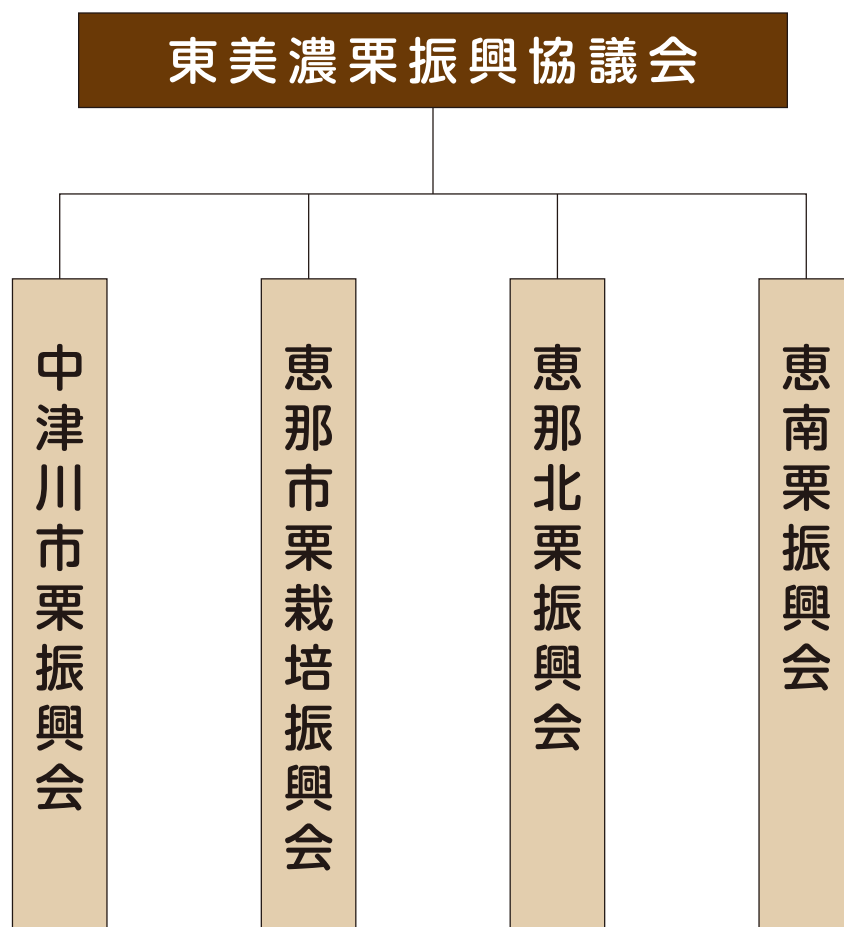
【管轄】 恵那市、中津川市

【設立年】 昭和37年

組織図

東美濃地域には、東美濃栗振興協議会というクリの生産者組織があり、その下部組織として各地区に振興会が組織されています。JA出荷をする際は、東美濃栗振興協議会員となり、各地区の振興会に入ることになります。

協議会員になると、病害虫防除指導や剪定講習会等の技術指導が受けられ、農家初心者でも高品質なクリの生産ができるようになります。また、地元菓子屋との契約出荷により、高単価で安定的にクリを取引することができます。



東美濃“クリ産地消(商)産地拡大”プロジェクト活動

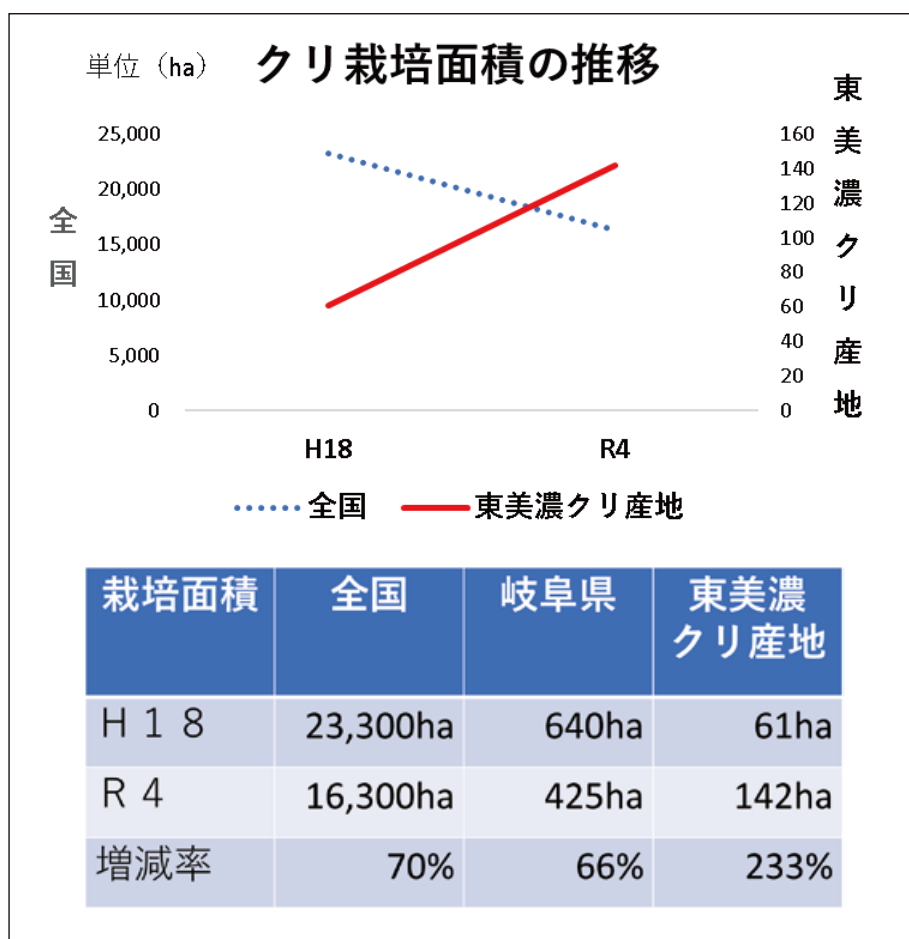
東美濃“クリ産地消(商)産地拡大”プロジェクトとは？

中津川市及び恵那市の東美濃地域は、栽培面積で県全体の半数を占める一大クリ産地で、クリを原料とする菓子業者が多くあることから、クリは地域産業を担う重要な農作物となっています。

しかし、菓子業者のクリ需要は当産地の供給量を大きく上回っています。

このため、平成 18 年 8 月に関係機関が一体となって、東美濃クリの産地拡大を目的として本プロジェクトチームを設置しました。

これまでの活動成果



これまで本プロジェクトチームは、栽培面積 2 倍増、出荷量 1.5 倍増、販売額 1.5 倍増を主要目標に掲げ活動してきました。

その結果、**栽培面積は大きく拡大**、出荷量、販売額はともに増加傾向となりました。全国的に縮小していくクリ産地が多い中、**東美濃クリ産地は拡大をした数少ない産地**です。

産地拡大の取組

半農半Xの推進

本プロジェクトでは、半農半X（農業＋仕事や年金）による就農を推進するため、技術習得、仲間づくりまで一貫して支援することで、就農者へのフォロー体制を充実させております。

技術習得研修



クリ新規栽培チャレンジ塾

仲間づくり



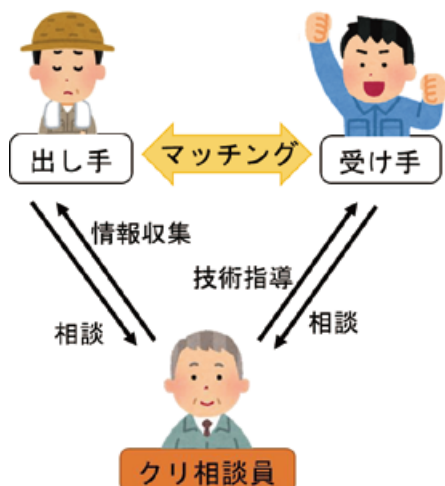
東美濃栗振興協議会活動

産地維持の取組

園地流動化の促進

高齢化等により管理ができなくなったクリ園を新しい担い手へ早急にバトンタッチできるよう園地の流動化を促進しています。

また、マッチングの円滑化のために、生産者からなる「クリ相談員」が出し手と受け手の間に入り、技術支援や相談に乗ることで、出し手と受け手が安心してバトンタッチできる体制を整えています。



今後の活動計画

産地拡大のために

半農半Xによる就農支援を継続し、就農者どうしの仲間づくりを推進していきます。また、地元菓子業者等との新たな連携を構築し、産地拡大に向けた取組を推進していきます。

産地維持のために

現在進めている園地流動化の仕組みを確立し、産地全体への仕組み拡大を図ります。

メッセージ

農家も元気、産地も元気、地域も元気の東美濃でクリの魅力を感じてもらい、これから100年続くクリ産地を目指して私たちと一緒にクリ栽培してみませんか。